

教育費の減は、高階市民センター建設が完了したことがその理由です。

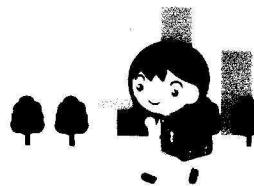
市長曰く、20年度の予算は「環境と子育て支援」に力点をおいたとのことです
が、私にはあまり特徴的な部分がある予算には見えません。川越市の特徴というわ
けではありませんが、川越市は財政規模のわりに生活環境整備関連の予算が少なく、
生活道路未整備箇所が900箇所を越えていることは、その一例といえます。

さらに、経常収支比率は18年度速報値で86.5%と適性値(70~80)より高くなっ
ており、今後も悪化することが予想されています。この経常収支比率は、家庭で言
う光熱費や家賃・食費などと同じ常時出していく費用で、この割合が高いということ
は、自由になるお金が少ないということになるのです（財政の硬直化）。

ここでは、紙面の都合上今年度予算についての一部を簡単に触れています。詳し
くは、4月25日号の議会だよりをご覧下さい。

川口けいすけ一般質問

① 古谷東小学校の今後について



平成21年4月に川越市初の学校統合となる古谷小と古谷東小学校は両校とも私の
母校ということもあり、以下の点を確認し、意見を述べました。

市の統合後の学校施設の捉え方を確認し、「地域住民にとって身近な公共施設で
あり、地域のシンボル的存在で、廃校後も地域コミュニティの拠点として活かすこ
とが重要」との答弁を引き出すことができました。

さらに、跡地検討の時間が少ないので、暫定利用という考え方が必要だと質
し、「そのような考えを持って取り組む」旨の答弁をいただきました。

現在すでに入っている教育研究所の研修施設の今後と、避難所・備蓄庫の今後につ
いても訊ねました。教育研究所については、「継続して利用したい考え」とのこと、
避難所・備蓄庫については、「今後検討する」との答弁でした。

② 清掃事業に係わる諸問題について



現在建設中の新清掃センターは、ガス化溶融炉という俗に『何でも燃やせる炉』
とも言われる炉を採用しました。しかも、焼却灰は溶かして固めて建築材に使用で
きます。そのため、ごみの減量・分別・再資源化の流れを衰退させる恐れが心配さ
れています。さらに、この炉は高い熱量を必要とすることから、ごみの量があまり
少なくなりすぎると、助燃剤を多く投入し熱量を上げなければならないのです。

一般的に言われるこうした懸念から、近年紙ごみや生ごみ減量の政策が進んでい
ないことを指摘した上で、新清掃センター稼動後も、現在行っている『その他プラ
スチックごみ』の分別・再資源化を止めないよう求め、市の考え方を伺いました。
「市としては、今後もごみの減量・再資源化を最優先に考え、資源物を可燃ごみと
して処理する考えはない」との答弁をいただきました。